



唐三彩の玩具－最古の孫悟空像－

『西遊記』の祖型は、^{ざる}猴の行者が玄奘三蔵を導いて西域に仏典を求める仏教説話といわれています。ここに登場する猴行者が、孫悟空のモデルと考えられています。敦煌莫高窟の壁画等に描かれた猴行者は、白装束で頭に金属の輪をかぶっています。この金輪は、もとは白い布に通して帽子としたもので、当時の行者の定番の姿でした。

奈良文化財研究所と中国・河南省文物考古研究所が共同で研究をすすめる唐三彩の中に、頭に金属の輪をかぶる猴の玩具を発見しました。製作時期は盛唐晩期から中唐期（8世紀後半から9世紀初頭）とみられ、この時期には、なんらかの猴行者に関する話が成立していた可能性が高いといえます。

安史の乱（755～763）以降、中国の中原地域は長い争乱の時代がつづき、数多くの文物が失われました。『西遊記』の祖型である仏教説話も、日本や韓国に写本が残るのみで、中国国内には残っていません。しかし、土中に埋まった埋蔵文化財には、華やかな唐王朝が作り出した文物が、まだまだたくさん眠っていることでしょう。

（都城発掘調査部 神野 恵）

所蔵：中国河南省鞏義市博物館

出典：『鞏義黄冶唐三彩窯』奈文研史料第61冊（2003）



猴行者の顔

猴行者の顔

亀

実物大イメージ